

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第1回文化芸術推進審議会
開 催 日 時	令和7年8月4日(月) 午後 1時30分から 午後 3時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 2階202会議室
出席委員(者)氏名	小松弥生委員、渡辺弘委員、高田明充委員、廣瀬正子委員
欠席委員(者)氏名	金澤美智子委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 油川誠課長、 山崎功二主幹 川島和也主査、小山達也主事
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	<p>次第</p> <p>令和6年度文化芸術事業実績報告書</p> <p>第2回吉川市美術展覧会目録</p> <p>暴れ神輿 吉川の夏</p>
会議録の作成方法	<p><input type="checkbox"/>録音機器を使用した全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>録音機器を使用した要点記録</p> <p><input type="checkbox"/>要点記録</p>
会議録確認指定者	小松弥生委員、廣瀬正子委員

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
<p>高田会長 事務局 高田会長 小松委員</p>	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 あいさつ</b> 高田会長あいさつ</p> <p>会議録署名委員の指名について、小松委員、廣瀬委員。</p> <p><b>3 議事</b> (1) 吉川市文化芸術推進基本計画の進行状況の点検・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> <li>・資料に基づき説明</li> <li>・質問、意見はあるか。</li> <li>・八坂祭りについて、色々調査もしていて、しっかりまとめられていて良いと思う。</li> <li>・市の担当者と各地区の人達が繋がったことはとても大事なことである。</li> <li>・東日本大震災後、福島県浜通りでは、長期にわたり全住民が地元を離れて避難生活を余儀なくされた。ある地区では、毎年行っていた田植え踊りを継続させたいと考えた住民が、踊り手の避難先の調査、衣装や道具の調達などを行い、文化施設での実演を実現した。福島県の研究者が震災後、民俗文化財の被災状況を調べ、復興のための手立てを検討しようとしたが、未指定文化財はどこに何があったかすらわからなくなってしまったので、平時から所在の把握が大切であると実感したとのことであった。また、田植え踊りのような事例からわかったことは、民俗文化財が地域のアイデンティティ、地域の人々の心の紐帯となっているということである。</li> <li>・八坂祭りは昨年度の会議でも盛り上がったが、とても生き生きと話をされていたので、吉川市のアイデンティティになっているのだと感じた。それは失われないと気が付かない。福島県は失ったからこそ気が付いた。そういった意味で、とても大事だと市民の方にもっと分かって欲しいと思う。</li> <li>・秩父では子ども達が祭りに加わっており、学校で歌舞伎なども学んでい</li> </ul>

	<p>る。秩父は過疎が進んでおり、地元の人だけでは開催できないため、募集したり、周辺の人に手伝ってもらいながらやっている。一方で、民俗文化財にはしきたりがあり、地域の人に限定していたり、女性の参加に制約があることもあるが、八坂祭りには女性も参加できるのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八坂祭りも元々は、女性は参加できなかったが、時代とともに女性も参加することができるようになってきた。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しきたりを変えていかないと、繋がっていかないということもある。別の地域の事例も集められると良いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八坂祭りでは、古くから神輿を担いでいる町会のうちの一つで、担ぎ手を募集するため、昨年から神輿体験会を始めた。</li> <li>・後継者や担ぎ手が減り、神輿を担ぐ人数が集まらない。これは他の町会も同様で、自分の町会だけでは人数が集まらないから、市内の別の地域や市外からも参加者を募り、成り立っているという現状がある。</li> <li>・担ぎ手をどのように集めるかが課題であり、これから人口が減少し、地域のコミュニティもますます弱体化していく可能性がある中で、これからどうしていくべきかを考える必要がある。</li> <li>・担当としては、服装を整えるなどのルールを守れば、平沼町会の方でなくても、祭りに参加できるということを広く市民に知ってもらうことが大事であると考えている。</li> <li>・昨年の神輿体験会では、神輿を担ぐときに、「呼吸を合わせる」「息を合わせる」ことの大切さを学んだ。今年の体験会では、神輿を周りで支える人の役割の大切さに気付いた。昨年とは違う視点から神輿を担ぐ様子を見て、皆で一体となることが大事であるということに改めて学んだので、多くの市民に共有していければと考えている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も地元で祭りがあったところだが、祭りがあると、地域を離れて今はそこに住んでない人たちも集まってくる。それが祭りの良さだと感じている。</li> <li>・文化財に関連して、吉川の成り立ちについて、子ども達にもっと学んでもらえたら良いと思っている。</li> <li>・吉川が早場米の産地であることや、なぜ料亭が多くあるのか、大正天皇が越谷の鴨場に行く際に、吉川に船で来て泊まったという話なども聞いている。吉川にこうした歴史があることを知れば、子ども達が吉川を自慢できるようになる。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川の恵みを受けて吉川の街は発展してきた。料亭があるのは河岸場があったからで、早稲米も水の恵みがあったからと言える。一方で、水害が起きやすい地域でもある。徳川家康が利根川東遷事業や江戸川掘削とい</li> </ul>

<p>廣瀬委員</p>	<p>った河川改修を行い、川の恵みを受けてきたが、大水になると影響を受ける。そうした先人の苦勞と努力によって街が発展してきた歴史があるので、もっと紹介できるように考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月に市役所で文化財展が開催されていたことを知らなかった。公民館で文化財展のパネル展示を見て、実物を見たいと思った。</li> <li>・ 吉川市はまだまだ公民館の利用者が多いので、文化財展を公民館で開催するのも良いと思う。</li> <li>・ 実際に神輿が展示されていると、より関心が高まるのではないか。</li> <li>・ 私は吉川駅の南側地域在住であるが、近隣の方は八坂祭りがいつ開催されているか知らない人が多い。担ぎ手の募集も市の広報に大々的に掲載されていると目につくので、市の祭りとしてPRできれば良いと思う。</li> <li>・ 市が八坂まつりを後援する場合、宗教などを考慮する必要があるか。</li> </ul>
<p>小松委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財として捉えれば良いのではないか。</li> <li>・ 八坂祭りは観光として推し出しており、吉川八坂祭り実行委員会とよしかわ観光協会の共催で開催されている。</li> <li>・ 無形民俗文化財という観点では、形をなるべく変えずに伝承することが望ましいが、観光との両立という難しさがある。</li> </ul>
<p>廣瀬委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で開かれていた祭りが衰退してきている中、八坂祭りに子ども達を連れて行かれると良いと思う。うちの主人も初めて八坂祭りを見に行った。開始時間が20時からと遅かったが、面白かったと言っていた。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元々、神社は芸能などをやっている。観光と一緒に盛り上げた方がよいと思う。</li> </ul>
<p>高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館で文化財展をとという話があったが、市役所のコミュニティルームだけでなく、色々な場所で開催されると良いと思う。特定の施設しか利用しない人は結構いる。例えば、サラリーマンは、駅が生活の導線なので、吉川美南のイオンで場所を借りて展示する、吉川駅ではコアに展示をする等、色々な機会を設けることで、多くの人に知ってもらえるのではないかと思う。</li> <li>・ 先日、部活動の地域展開について話す機会があり、中学生の部活が地域展開されるのであれば、市展に中学生の部門を設けることにより発展するのではないかという話をした。出品数が前回と比べて微増ということで、参加のハードルを下げて、盛り上げていくことも一つ形ではないかと思う。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市展については、文化連盟との共催で、規格や募集要項を一緒に検討している。現状は、県展などの公募展を横並びで見て、他の公募展では高校生以上としている例が多いという意見を踏まえて実施している。また、</li> </ul>

高田会長	<p>公募展としての格式を大事したいという意見もあったように思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後に向けて、文化連盟にも意見を伺いながら、一緒に検討し調整していくことが必要である。</li> <li>・ 第1回市展の時に、写真部門とは別にスマートフォンで撮影した写真の部門を設けると、気軽に出品してくれるのではないかという話があったと記憶している。市展を広めていくために、入りやすさという点を考慮しても良いと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市展に関しては開催経験が浅い中で、県展を参考にしながら進めているところである。市独自に作品部門を設けたときに、どのように審査をするかという点が課題である。公募展のため、作品を審査する方は必要であり、その点をどうしていくか、研究していく必要がある。</li> <li>・ 以前に、デジタルアートが話題に上がった。他市でデジタルアート部門を設けている事例も見たが、専門の方による審査ではなく、来場者の投票で賞を決定するというものであった。そうした形でも、公募展として部門を設けるかということは文化連盟とも議論になったところである。活動の実態もあまり分かっていないので、どの程度の作品数が見込めるかという点も、把握をしていかなければならない。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県展を参考に、スタートしている部分もあるが、文化芸術基本条例の前文で吉川市らしさについて言及されていると思うので、市展にも吉川市らしさとして、光る部分があっても良いと思う。</li> </ul>
小松委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県展はどのように審査をしているのか。</li> <li>・ 県の美術家協会から審査員が選出されている。市展も同じように県の美術家協会に審査員を推薦いただき、入賞作品を選んでいただいている。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県展も改革はしていると思うが、長く同じようなやり方でやっているように思う。県展に引きずられる必要はないと思うが、色々なツテがないと、審査員を集められないとも思う。審査員に関しては、色々な人に聞いてみれば、どうにかなるのではないか。</li> </ul>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な考えがあることは理解しており、日展や県展のように一つの重さといったものを期待している人もおられるとは思う。</li> <li>・ 吉川市らしさという部分は必要だと思う。市展を本格的に開催できたのは実質的に今回が初めてということもあるので、皆さんの意見を参考にしながら、吉川市らしさという点や、誰もが参加できるようにしていきたいという思いはあるので、文化連盟とも共通認識を持ちながら検討していきたいと思う。</li> </ul>
小松委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私が申し上げたかったのは、必ずしも全国的な公募団体や公募展などの流れに乗る必要はないということである。</li> </ul>

高田会長	・今回の市展では書道部門で高校生から出品があった。吉川市の市展の特徴かなと思う。
小松委員	・高校の書道部はパフォーマンスをされたり、元気に活動している。
高田会長	・新しい流れで、そういったものもやれると良い。
小松委員	・新しい流れをどんどん応援してあげるような方向に行くと良いと思う。
高田会長	・伝統を守っていくことも大事だが、新しい流れを取り入れていかないとマンネリ化してしまうだろう。
渡辺副会長	・子ども達はデジタルアートみたいなものをやっていないか。
事務局	・学校で取り組まれているか把握していない。
小松委員	・学習指導要領にどの程度書いてあるか、教育委員会の中で確認すれば分かると思う。吉川市も一人一台端末になっていると伺っている。授業の中で端末を使うだけでなく、個人でも色々と使っていると聞いているので、密かにやっている子はいると思う。
事務局	・自分の子どもの話になるが、中学校では一人一台端末をプレゼンなどで活用している。プライベートの時間では、AIの分野にも興味を持ち出している。デジタルアートでAIが使われると、審査や評価に問題が生じるように感じている。民間企業がデジタルアートのコンテストを開催しているが、AIとの関係は非常に難しいようである。この辺りは民間の動向も踏まえて、研究が必要と捉えている。
小松委員	・確かに、AIとの関係は難しいと思う。
事務局	・デジタルアートでは心躍るような作品も出てくると思うが、それが本当に本人のアイデアかという検証が必要になる可能性はある。
高田会長	・部活動の地域展開について色々な話を聞くが、スポーツ関係は活動の状況が分かってる一方で、文化関係はあまり把握されていない。 ・子ども達がこんなことをやりたいと思った時に、環境を提供できるのだろうかと感じた。部活動をきっかけに、始めてみようと思うこともある。学校から地域展開に移行した時に、文化と子ども達の接点も変わってくるのではないかと思う。
廣瀬委員	・私は池坊という流派で生け花をやっている。生け花にも高校生の全国大会がある。家元が示したテーマに沿って、個々に3人が生けるものと、3人1組で創作する団体戦もある。これは池坊だけなので、他の流派がやっているかどうかは分からないが、吉川美南高校で生け花をやっているならば協力したい思いがある。
渡辺副会長	・演劇プロジェクトに関して、昨年を踏まえて今年に活かされていることや、上手くいってることはあるか。
事務局	・昨年、チケット販売状況が鈍かった時期に、地域の店舗を回り、ポスタ

<p>渡辺副会長 事務局</p>	<p>一を貼っていただいたり、チラシを置いていただくという周知活動を行った。今年は早い時期から動き始め、商工会や東埼玉テクノポリスへ相談に伺った結果、協賛という形で市内の多くの企業に支援をいただけることになった。せっかく支援していただいているので、舞台をぜひ見に来ていただきたいという思いで、公演に協賛企業を招待している。今まで積極的にアプローチをしてこなかったところにアピールし、観覧に繋がっている点が昨年から改善できた部分であると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい取り組みだと思う。</li> <li>・そのほか、出演に限らない参加の在り方という部分で、今年の公演では自分の得意な分野を生かして関わってもらうことに取り組んだ結果、障がいをお持ちの方で裁縫が好きな方に、衣装の縫製をやっていただくことになった。</li> </ul>
<p>渡辺副会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい子ども達も参加していると伺った。</li> <li>・20名ほど市民キャストがいる中で、半分ぐらいの方が新しい参加者である。初めて参加する子ども達も声が元気で明るく、一瞬で会場が華やかになるように感じる。今までの演劇公演を見て、参加してみたいと思ったと言ってくれた方もいらっしゃり、広がりを実感している。</li> </ul>
<p>渡辺副会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の取り組みの効果が実感でき、良かったと思う。</li> <li>・昨年は、高齢者と子どもの参加が多かったが、今年は20代の方や中学生といった年齢層の方も参加している。昨年に実施した稽古見学会に参加された方で、今年は出演者として参加してくれている方もいる。</li> </ul>
<p>渡辺副会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシに多くの協賛企業名が並んでいる。</li> <li>・企業協賛について、昨年は主に埼玉情報センターが企画して、市の方でもそれを元に地域の店舗などにアプローチするというやり方であった。今年は、商工会や東埼玉テクノポリスと話をさせていただく中で、ギャップがあることが分かったので、埼玉情報センターと検討し、手を挙げていただきやすいように見直しを行った。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山市も秋に芸術祭をやっていて、企業協賛を募っている。今年は景気の問題や、サッカーがJ1リーグに昇格した影響を強く感じる。広島や長崎のように一企業が大きく支援してくれれば良いが、そうでないと中々厳しい。これだけ色々と協賛を集められているのはすごいと思う。</li> </ul>
<p>高田会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の窓口は商工課か。</li> <li>・今回は商工課と連携し、一軒一軒企業訪問させていただいた。</li> <li>・吉川市の北部に東埼玉テクノポリスという工業団地があるが、立地企業はもともとBtoBの会社が多く、あまり市民の方と関わることはなかったので、このような話をいただいて良かったという声もあった。地域とつ</li> </ul>

<p>渡辺副会長 高田会長 事務局</p> <p>高田会長</p>	<p>ながりを持ちたいと考えている企業があることが分かったことも、プラスになったところであると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これに関しては、継続していくことが大事である。</li> <li>他に何かあるか。</li> <li>昨年、初めて稽古見学会を開催し、今年も来週に行く予定である。プロの役者の話を聞きながら、稽古の様子を見ていただき、自分も参加できそうと感じていただければと思っている。</li> <li>昨年の公演では地元の消防団の方に協力してもらった。消防団の活動を知ってもらうきっかけになり、地域の課題解決にも繋がったのではないかと考えている。</li> <li>今年の公演についてチケット販売中なので、昨年とは違ったPR活動もやっていければと考えている。</li> </ul> <p>最後に参考に話をさせていただく。公民館で夏休み子ども陶芸教室を開催している。これまでは電話による申し込みで、それでも定員20人が満員になっていた。今年、電子申請で申し込みを受け付けたところ、50人弱の申し込みがあり、こんなにやりたい人がいたのかということが分かった。今後はやり方を考えないといけないと感じたところである。</p> <p><b>4 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次回の会議は1月または2月頃の開催を予定している。</li> </ul> <p><b>5 閉会</b></p> <p>渡辺副会長よりあいさつ</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 7 年 9 月 4 日</p> <p>署名委員 小松 弥生 (自署)                      署名委員 廣瀬 正子 (自署)</p>	